
令和7年度第4回グアム日本人学校 学校理事会議事録

開催日：2025年8月16日 時間：午後5時00分～午後7時30分（ChST） 場所：学校会議室およびオンライン 出席者（議事録上敬称略）：富江、小和野、時任、安居、許 （オンライン参加）柳澤、木村、武石、伊藤、渡辺 （オブザーバー参加）権田、福士	欠席者：小林 議長：小和野 記録：許
---	----------------------------------

定数確認：理事の定数参加により本会議は正式に開催されることが確認された。

冒頭に富江新理事長より挨拶があった。

1.1 財務 予実採算報告（時任）

- 日本人会からの\$60,000の寄付（小切手はすでに準備済み・受け渡しは後日）
 - 用途が決定しだい、セレモニーを実施検討（昨年度はプレイグラウンド設置費用）
- 外務省からの謝金が見込みより減少（マイナス\$42,000）
 - 謝金支給比率 65%見込みが 45%に減少。
- 7月は夏休みのため、授業料収入はなく支出も他の月より少なかった
- 決算報告（監査後）について
 - 監査により、発生ベースに修正した結果、収支が悪い側に動いた
 - 日本人会総会での報告値と今回報告の数値が異なる
 - 項目の組み合わせの差異（発生主義と現金主義）による。小林監事が監査済の数字が正。
 - 前年度の学校理事会にて、事務作業の軽減の見地から現金主義への移行が認められている（木村）。

1.2 プレジデント報告（時任）

- 中期計画に基づいた3つのテーマを各校管理職によるタスクチームにて検討中

- サマーキャンプ：
 - 収支悪化：フルタイム教員の体調不良による追加人件費、教材費や食材費の学校負担による
 - 島外からの参加者もあり、今後につながる内容であった
 - 冬にも実施する、英語のキャンプ等の新しいアイデアを検討中
- JSL プログラム：
 - 全日制と補習校または日本語会話の2つに通う場合、2校目の費用は50%とした
 - 体験入学に参加した小4の児童について、入試を実施し日本語会話クラスの受講を条件に入学を認めた。
 - プログラムをオープンにしたい：現状は教員の増員が必要なほどの応募は想定していない。将来的には補習校の低学年で定員に達する可能性もある。
 - プログラムを始める、終了するときの判断は両校の管理職による合議とする。
- 補習校次年度の体制：今年度と同様に渡部、稲垣両先生による体制を検討中。
 - 保護者側からのフィードバック（安居）：
 - 保護者からは常勤の校長不在への不安は上がっていない
 - 学校だよりのお知らせ機能についての Web サイトでの補完の要望あり
 - 検定試験関連の学外への広報
 - JSL により日本語を話さない生徒が増加することへの不安はある
- 生徒数
 - 1学期からの増減があったが、予算作成時の想定人数は確保できている。
 - 7月のJOES事務長会議でも生徒数確保の幼小連携の重要性が議論された（武石）
- FEMA 援助金による施設修繕
 - 契約書を締結するところまで至っており、支払い条件等について理事に共有する。
- 研修制度
 - 理事会による最終審査が必要、としていることについて、権限表にある予算外の支出として取り扱うこととした。
 - 研修後1年以内に退職した場合の返金について、法的に問題がないかチェックした方がいい（富江）
- 友達カード
 - 友達ランと時期を分けることを検討している。

- 福利厚生として教職員に配布することに関して日本人会総会で議論があった。時期が来たらまた理事会で検討いただきたい。

2.1 グラム日本人会定時総会 JIAG 関連質疑応答について （小和野）

- 書面で質問があったものは書面で回答しており、それを資料に反映した。総会場で口頭での質問があったものは、会場での回答を記憶に基づき記載した。
- 質問項目によっては、質問者に理解・納得していただいていない項目がある。第3者委員会により今後質問がある予定。
- 8/10 に非公式の会合を持ち（冨江、小和野、時任各理事が参加）、第3者委員会の目的や設置期間、成果物の計画を学校理事会にあらかじめ伝えるように申し入れてある。また、直接の利害関係者が委員会に入るべきではないということも伝達した。次回学校理事会に第3者委員会から3名程度のオブザーバー参加がある予定。発言等についてルールを守っていた。
- そもそも第三者委員会の設立は日本人会の中で行われるものであるが、そちらをオブザーバーとして受け入れることになる学校理事会としては、早急に第三者委員会の TOR (Terms of Reference、業務内容、目的、成果物、スケジュールなどを明確に定義した文書) を入手し、内容を精査した上で、ルールを策定し、対応する必要があるがその提示がなされていない（武石）。
- 50 校ぐらいの学校の組織を確認したが、大規模校では通常 Superintendent の下にそれを支える部署がある。学校の規模により業務内容は変わらないにも関わらず、当校にはそういった部門がなく、プレジデントがほとんど一人で切り盛りしていることを考慮、回答にも反映すべき（伊藤）。資料に記載の回答でもある程度反映していると考え（柳澤）。
- 日本人会または学校として総会出席者やその家族、関係者に対するケアが必要（伊藤）。保護者の中で総会での出来事に関する噂話が一人歩きしている（安居）。先日日本人会ウェブサイトでは総会報告とともに顛末を今後公表する旨を記載している。保護者に対するケアは確かに必要（冨江）。保護者説明会の開催も一案（武石）。9月の両校の PTA 役員会やオリエンテーションなどがその機会としてよいのではないかと（柳澤）。質問者も学校のためを思っている（冨江、小和野）。
- 経営に関する事項の透明性が足りなかったことを反省している。今後対策について提案したい。第3者委員会の関与により学校経営に対して悪影響がないような配慮が必要（渡辺）。日本人会としても委員会の目的や運営方法を事前に確認し、健全な関係構築を図ることを考えている（小和野）。

- 第3者委員会の出席者には前提となる知識を持ったうえでオブザーバー参加していただきたい。そのためには日本人会にその機能が必要（柳澤）。
- 今回の件の発端についても日本人会理事会にてヒアリングをしてみてはどうか。今回声を上げた方々の中では、その後内容を知るにしたがって、学校理事会が正常に機能していると理解している人もいると思われる（木村）。
- 特にプレジデント制移行時の議事録の内容に関しては各理事においてそれぞれ見返し、今後の情報発信のあり方について改善点を検討すべき（小和野）。

2.2 新たな幼稚部のアシスタント雇用に関して（時任）

- 経験は5年7か月、幼稚園教員免許あり。ボランティアとして2か月勤務。週3回の勤務を想定している。賃金交渉はこれから。
- 賃金テーブルには経験年数による区別はない。今後の上積みがないということを考慮すると上限の■■■■ではなく中位■■■■から始めるのはどうか（武石）。
- 特別手当の■■■■／月を適用すると納得感がある。
- 6週間の賃金については以前の理事会にて承認を取っているが、基本的には期初の予算を超えるコストであるので、6週間を超える場合にまた理事会にて議論をお願いする
- 以上の議論の結果、時給■■■■と特別手当■■■■／月にてオファーすることが承認された。

3 PTAからの報告

- 両校PTAとも夏休みのため特に報告事項はなかった。

その他（福士領事）

- 2024年度は外務省の謝金が45%となったが、毎年変動する。その他にも政府補助が各種あるので有効に活用していただきたい。
- サマーキャンプ参加者（普段は現地校に通学）からのフィードバックとして、夏休み最高の思い出となった、準備から片付けまでを経験できて大満足だ、という生の声を聴くことができた。

次回の第5回理事会は9月13日（土）午後5時に開催予定。

（了）